

一食を捧げる運動 ニュースレター

"いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも"



VOL. **03**
2017.November

CONTENTS

“時”を越えた再会 原点とのつながり

～ゆめトモ交流プログラムから～
船橋教会学生部スタッフ●山本健人さん

海を越えた家族

来日した MCL 奨学生たちの声

一食でつながる 一食をつなげる

渋谷教会の子どもたちの活動から――

【インフォメーション】

【一食人のつぶやき】

一食で世界とつながる



習学部 青年ネットワークグループ



インフォメーション



◆動画

「一食運動」の学習教材等にご利用いただける一食映像作品を紹介します。下記の映像作品はDNA（インターネット映像配信）でもご視聴いただけます。

日本と韓国の懸け橋 ～慶州ナザレ園～

(2016年制作)

一食平和基金の支援先である韓国（慶州）のナザレ園という老人ホームで生活する、第二次世界大戦、朝鮮戦争に翻弄されつつも韓国で生き抜いてきた日本人女性の暮らしを描いた映像作品です。



希望と生きがいを生み出す一食

～ヨルダン・シリア難民キャンプレポート～

(2016年制作)

現在、世界的な問題となっている「シリア難民問題」。ヨルダンのザータリ難民キャンプで生活するシリア難民に対して、一食平和基金のパートナー団体であるJEN（ジェン）が、どのような支援をしているかをわかり易く伝える映像作品です。



◆御礼

今年、「アフリカへ毛布をおくる運動」では2万7326枚の毛布が、また、「親子で取り組むゆめポッケ」では2万2927個のポッケが寄せられました。真心からのご協力、誠にありがとうございました。

◆皆さんの声をお聞かせください

一食を捧げる運動ホームページの「お問い合わせ」に、ニュースレターに関するご意見、皆さまの一食エピソード、ご要望など、なんでもお寄せください。



メールアドレスはこちら

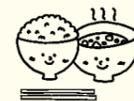
info_ichijiki@ichijiki.org

上記のQRコードからでも「お問い合わせ」にアクセスできます。

◆送金のお願い

日頃より一食を捧げる運動にご協力くださり、誠にありがとうございます。本年の一食献金の送金最終締切日は12月8日となっております。教会の一食平和基金専用口座から本部の立正佼成会一食平和基金口座に送金をお願いいたします。

振込先：みずほ銀行 中野支店 普通預金519418
口座名義（受取人）：立正佼成会一食平和基金



いちじきひと
一食人のつぶやき



てんてん
平成26年入職。28年青年ネットワークグループ配属。雑貨・家具・食器をお店で見るのが最近のマイブーム。このマイブームゆえに、部屋の広さに対して大き過ぎる物欲と日々奮闘中。

episode-02

友達になりたい！

一食を捧げる運動の推進に関わる「一食人」たちによるコラム。今回は、この人「てんてん」です。

夏休みになると、家族で海に行き遊ぶのが我が家の定番でした。故郷に帰り、久しぶりに海へ行くと、当時と変わらない海がありました。

小さい頃、ビンに手紙を入れて海に流し、どこか遠くの海岸でそのビンを持って中の手紙を読んでもくれる人がいたら、どんなにすごいことだろう…と思った私。あれから歳月は過ぎて、一食の

支援先のことを知り、支援先の方の声を聞くことで、違う国の人たちを身近に感じるようになりました。一食を通し、形を変えてあの頃の思いをかなえてもらっています。

誰かのために思いを馳せることのできる一食を捧げる運動。今日も世界の誰かと友だちになりたいと思っています。



一食を抜き、祈りをこめて献金したその献金箱の先には、どんな世界が広がっているのでしょうか。時を越え、海を越えてつながるドラマを、ともに創造していきませんか!!



“時”を越えた再会 原点とのつながり くゆめトモ交流プログラムから



やまもとけん と
山本健人 (20)
船橋教会学生部スタッフ

フィリピンのミンダナオ島で出会った、あの彼らともう一度会える……。その機会を与えてくれたのは、今年5月に実施された「くゆめトモ交流

プログラム」(主管・青年ネットワークグループ)でした。同プログラムにより、私がかつて「くゆめポッケ親子ボランティア隊」の一員として交流した「ミンダナオ子ども図書館」(MCL)の奨学生たちが来日したのです。

再会への期待が膨らむなか、私は8年前に「くゆめポッケ」を通して出会った彼らのことを思い出していました。

当時の私は、中学入学を間近に控えたまだ12歳の子ともで、彼らにどんな言葉をかけていいのかかわからず不安でいっぱいでした。ミンダナオ島では宗教の対立などで紛争が続き、私と同世代の彼らは家や家族を失い、過酷な状況のなかでMCLの支援を受けて学校に通っていたからです。



8年前に「くゆめポッケ」をとおして出会ったMCLの奨学生たちと(右から3人目が山本さん)

そして、この5月——「くゆめトモ交流プログラム」で、すっかり大人になった彼らを、私は船橋教会で迎えることができました。

お互いに、涙ながらに抱き合ってから再会を喜んだこの日を、私は決して忘れないでしょう。さらに、MCL

しかし彼らと出会った瞬間、その不安は消し飛びました。「日本ではどんな生活をしているの?」皆がとびきりの笑顔で私に語りかけ、すぐに仲間の輪に入れてくれたのです。

彼らは悲しい思いをしてきたが、人の心にさりげなく寄り添える術を自然と身につけてきたのでしょう。そんな彼らの姿から、ボランティアに来たという私の気負いはなくなり、その後は一緒にダンスを踊ったり、歌を披露し合ったりと、有意義で楽しいひと時を過ごすことができました。

愛と友情が一番大切だと思いました。皆さんの笑顔で私はもっと強くなれたと思います。

私たちが作りあげた友情が世界の平和につながりますように。

楽しくて、素晴らしい機会をくれた皆さんは、私の2番目の家族です。親友である皆さんのことを決して忘れません。私は希望を人々や世界に届け続けたいと思います。

フィリピンにいる私たちのことを思ってくれているということが交流を通して伝わり、つながりを感じる事ができました。

くゆめポッケを受け取った時、中に何が入っているのだろうと、とてもワクワクしました。

仲間と私をつなげてくれた。そして、私自身の原点とも……。その宝を胸に、これからも一食運動に取り組んでいきたいと思っています。

設立者の松居友さん(まかいとも)の言葉が、胸に響きました。

「大きくなったね。MCLは君の第二のふるさとなんだよ」

このとき、改めて気づいたので。MCLの彼らは、「支援を受けたぶん、困っている人を助けたい」と、

渋谷教会の子どもたちの活動から

渋谷教会少年部が「一食運動」の精神を仲間につなげて今年で4年目を迎えました。おやつを我慢して小遣いから献金するなど、子どもたちは、自分でできる

ことを考えて、「マイ募金箱」にコツコツと布施行の実

践を続けているほか、昨年には、「ユア(you)募金箱」と称して学校の友だちに募金箱を渡し、「一食ユニセフ募金」への協力を呼びかけました。活動の軸になっているのは、小学生を中心に構成される鼓笛隊のメンバーです。同教会の鼓笛隊は、庭野

一食でつながる 一食をつなげる

ます。なかでも、「三つの精神」である「同悲」「祈り」「布施」の実践として、練成会2日目の昼食を抜いた

午後の練習では、息もピッタリ、くもりのない音色に変わりました。「人さまのために動くことを学んで心が清まると、音も違うね」「二つにまと

まって素晴らしい」と、居合わせた人も驚くほどでした。隊員たちの心が一つにつながった瞬間です。

鼓笛隊責任者の藤間祥匡(ふじま しょうき)さんは、「一人ひとりが優しく、相手のことを考える思いやりのある子に育ちました。一食のことも定着して、三つの精神についても人に伝えられるようになりました」と、子どもたちの成長を喜び、見守っています。

昨年と今年の8月には、ご命日式典の式衆を小学生が務めました。

そこで子どもたちから「一食運動」を実践した感想が話されました。「世界のためにお金が使われてよかった」「友だちが協力してくれてうれしかった」「ご飯を抜いてつらかった」……。教会に参拝した人たちが、目を細めて聞き入りました。

少年部長を務める菅谷佳良子(すがや かよこ)さんは「小学生だからできないと決めつけるのではなく、小学生だからこそできることをさせていた。子どもを一人の人間として見ていく大切さを学んでいます」と話しています。

